

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年11月28日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「自然物を使ったステンドグラス作り」～秋の自然と光の観察～

<テーマ設定理由>

子ども達は日々の活動の中で、花や野菜、虫、どんぐりなど、季節の自然に強い興味を示し「色が変わってきたね」「こっちが大きいよ」と友達と感じたことを伝え合いながら楽しむ姿が多く見られます。散歩中や室内遊びでも、光の当たり方によって色の見え方が変わること気付くなど“気付き”や“観察する力”が豊かに育ってきています。そこで今回は、子ども達が自分で選んだ素材を使い“色の変化”“光の不思議さ”“自分で表現する楽しさ”を味わえる活動として、ステンドグラス作りを選びました。

2. 活動スケジュール

11月に頻りに散歩に出掛け、近隣の公園で自然観察や秋の自然を探して歩いた。自由な探索の中で子どもが気付いたこと、発見したことなど感動の共有を大切に、子どもの気づきをクラス内で共有してきた。また、同月に構成あそびの一つとして折り紙や画用紙を取り入れた活動を行い、好きな形を並べたり、重ね合わせたり、貼り付けて形を構成する中で別の形に代わることも何かに見立てて楽しむ遊びを経験してきた。光に透かして見える周囲の色の変化や自然環境の色づきに興味を深め、光の加減による変化を楽しむ様子が見られた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・色々な色のセロハン ・テーブル、椅子
- ・落ち葉
- ・台紙（ブッカー）粘着面に落ち葉とセロハンをおく。
- ・作品を吊るす紐、クリップ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

- ・自然物やセロファンなどの素材を豊富に用意しておく。
- ・自分で自由に選び、配置、組み合わせを楽しむ。
- ・何度も繰り返して構成遊びを楽しむ。
- ・出来たときの喜び、自分で作ったことへの満足感に共感してもらい喜びを深める。
- ・完成後に光に透かして見たときの 発見など、様々なこと気付く。
- ・子どもが主体性を発揮して、いろいろな場所で透かしてみようとする。
- ・「こっちの方が光がきれいだよ」と友達と知らせ合う
- ・友達同士で色の変化を教え合う
- ・透かしたときの美しさに気付く。
- ・自分の作品に満足したり、見てもらうことを喜んだりする。
- ・「なぜ？」 「どうして？」などと感じる
- ・友達と一緒に考えたり、意見を聞いたりしながら活動する。
- ・“表現する楽しさ”を味わう。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- ・カラーセロファンを重ねたり向きを変えたりする中で、「赤と青を重ねたら紫みたいになった」「こっちに動かすとピカピカして見える」など、色の変化や光の当たり方による違いに気づいている。
- ・友だちの作品を見て、「四角だけで作ると窓みたい」「葉っぱを入れると本物みたいに見える」など、形や素材によって印象が変わることに気づき、自分の表現にも取り入れようとしている。
- ・材料コーナーでは、「ぼくはあおが好き」「じゃあ、わたしはきいろにする」「かえてみる？」と、好きな色や使いたい素材を伝え合いながら素材を探しにいき、何度も組み合わせさせて楽しんでいる。
- ・制作中には、「ここ、もっと光が入るようにあけておこうよ」「その色きれいだね。どこに貼ったの？」などと相談し合い、友だちの工夫を真似したり、自分でどのように貼ろうか考えたりしながら作品づくりを楽しんでいる。
- ・保育士が「この色にしたんだね」「光に当てたらどんなふうに見えたね」と応答的に話しかける。子どもは窓辺や園庭まで作品を持っていき、「わぁ、ここがキラキラしてる！」と気づきを言葉にし、さらに別の場所も試してみようとする。
- ・一旦他の遊びに移行してもまたすぐに一時保管場所として吊るしておいたところから手に取り遊び始める。友達が使っていたり、新たな発見をするたびに気分もやってみようとする気持ちが芽生えていた。
- ・陽の光に透かすことで浮かび上がる葉脈の美しさに子どもが気付いて「骨みたい」とつぶやいていた。
- ・園庭の自然や園外の自然、青い空や陽の光など、自然にあふれている要素を作品を通して観察し、まるでその世界まで取り込んだ一つの作品になったようで、それに気づいた子どもの感動が伝わってくる。透かして見える場所を変えることで無限に作品世界が変わっていくことをいろいろな場所に持ち込んでいる子ども自身の様子から、子どもが気づき、学び取っている様子が見られる。



5. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・日々の自然体験を通して、子どもたちは色や光の変化に自分から注目し、「きれい」「こっちが光ってる」など言葉にしながらかかめる姿が育っていることに気づいた。
- ・ステンドグラス作りでも、素材の色・形・透け方を比べたり、向きを変えたりしながら「どうしたらもっときれいに見えるか」「どのような向きで光を当てたら地面に写るのか」などを考え続ける様子から、4歳児なりの観察力と試行錯誤する力が豊かになっていると感じた。
- ・好きな色や形を自分で選び、置き方や組み合わせを決めていく姿から「自分で考えて表現する」主体的な制作活動になっていると実感した。
- ・同じ素材を使っている、一人ひとり全く違う構成やイメージの作品になっており、これまでの自然との関わりや経験が、その子らしい表現として表れていることに改めて気づいた。
- ・「こっちの方が光がきれいだよ」と、友だちに知らせたり教え合ったりする姿が多く見られ、色や光の発見を共有し合うことで学びが深まっていると感じた。
- ・作品を見せ合いながら「すごいね」「こうしたんだね」と言葉を交わし、認め合うやりとりが自然に生まれており、表現を通して友だちの良さに気づいたり、自分の作品に自信をもったりする姿が育っていることに気づいた。
- ・保育者が素材の量や色のバリエーション、光に透かして見られる環境を整えたことで、子どもが自ら比べたり発見したりする姿が増え、環境構成が子どもの「気付き」を引き出す大切な要素であると再確認した。
- ・「どんなふうに見える?」「ここはどうしようか」と問い返しながらかかめることで、子どもが自分の言葉で説明したり考えを広げたりする様子が見られ、大人が答えを示しすぎないことの大切さに気づいた。
- ・今日の活動で生まれた「光が当たるとどうなる?」「外だともっときれい?」といったつぶやきを生かし、今後は天気や時間帯を変えて見てみるなど、光と色の不思議さを継続して味わえる場を計画していきたいと感じた。
- ・自然の色の変化に気づき、表現する楽しさを味わう子どもたちの姿から、今後も季節の素材や身近な自然を取り入れた制作活動を重ねること、で、「なぜ?」「どうして?」という問いを大切に育てていきたいと感じている。